

## 令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

宮城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
宮城県仙台二華中学校・高等学校	宮城県教育委員会	公立

### 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
宮城県仙台二華中学校・高等学校	<a href="https://nika.myswan.ed.jp/tokubetsukyoikukatei">https://nika.myswan.ed.jp/tokubetsukyoikukatei</a>	

### 2. 特別の教育課程の内容

#### (1) 特別の教育課程の概要

平成26年度から5年間、文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール(SGH)指定校に認定され、課題研究や教育課程等の研究に取り組んできた。SGH指定期間が終了する平成31年度以降も、学校設定教科「グローバルスタディ課題研究(GS課題研究)」を新設し、SGH指定時に実施していた特別の教育課程(学校設定教科「SGH課題研究」)の継続教科とすることで、SGH事業で取り組んできた課題研究の更なる深化を図るものである。

学校設定教科「GS課題研究」設置理由：

SGHの指定で得た知識・手法を生かし、「世界の水問題の解決」に関する課題研究を行うことで、社会の問題に対する関心と、深い教養及び問題解決能力等の国際的素養を身に付けるため。

学校設定科目：

高校1年次「GS課題研究Ⅰ」(2単位)

※「総合的な探究の時間」(2単位)の代替科目

高校2年次「GS課題研究Ⅱ」(3単位)

※「総合的な探究の時間」(1単位)と「情報Ⅰ」(2単位)の代替科目

高校3年次「GS課題研究Ⅲ」(2単位)

※「英語表現Ⅱ(4単位)」(本校では2年次2単位, 3年次2単位の分割履修)の代替科目(3年次の2単位分)

※2年次で「GS課題研究Ⅱ」を選択した生徒が3年次で選択可

#### 高校1年次「GS課題研究Ⅰ」

目標：北上川フィールドワークや模擬国連活動など、日本や世界が直面する深刻な社会問題の解決に正面から取り組む活動を通して、現代社会を生きる地球市民としての「適切な世界観」を身に付け、問題の原因や構造などの「本質を見抜く力」を育成する。

## 高校2年次「GS 課題研究Ⅱ」

目標：主としてメコン川／東南アジアに生活する人々の立場に立ってどのような状態が理想的かを研究し、水問題とその解決のプロセスを考えることをとおして、そこに生きる人々に「共感する力」と、理想的な状態を具現化する「構想力」を育成することに主眼を置く。また、この科目は本特例により「社会と情報」の代替科目でもあるので、必要な情報の収集の仕方、得られた情報をもとに正しく活用する力等も併せて身に付ける。

## 高校3学年「GS 課題研究Ⅲ」

目標：自ら考えた「水問題」の解決策について、国内外の学会等で発表し、専門家から指導助言等を得ることにより、より現実味のある案に改善する。そして、説得力のある論文を作成し、カンボジアにある中学校やNPOなどに提案する。また、この一連の活動を通し、自分の考えや立場を「相対化する力」を育成する。

### (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

開校当初から取り組んできた課題研究を基盤として SGH 指定校に認定されることにより、外部人材をさらに活用することが可能となり、生徒の研究内容等についても深化している。課題研究への取組は、国際理解教育とともに本校の特色ある教育活動の1つでもある。SGH 指定期間を実施していた特別の教育課程における教育効果を、当該期間が終了する平成 31 年4月以降も継続させるために学校設定教科「GS 課題研究」を後継教科として設置して、SGH 事業で取り組んできた課題研究の更なる深化を図るために、本特例を編成し教育を実施する必要がある。

## 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

### (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

### (2) 実施状況に関する特記事項

コロナ禍において実施を見送ったり、規模を縮小して実施したりしていた各種取組については、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことに伴い、本来の規模で実施することができた。さらに、コロナ禍に対応するために試行錯誤したさまざまな工夫やオンライン会議等のノウハウも併用し、これまで以上に充実したプログラムを実施することができた。

### (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

#### <特記事項>

高校1年次の「北上川フィールドワーク」においては、令和3年度から野蒜海岸・州崎湿地でフィールドワークを実施しており、令和5年度も現地協力団体の支援のもと、有意義な学習活動を実施することができた。当該団体の協力をいただきながら当該方面に関する研究を継続している生徒は、1月に現地で研究発表を行い多くの方々から指導助言をいただいた。また、高校2年次においては、今後ますます深刻化することが予想される水問題について、近隣の小学校を訪問して啓発活動を行った。

研究の成果については、生徒それぞれの研究分野に合致した学会やシンポジウムに参加し発表した。12月には東南アジア学会において、本校の探究活動の紹介、パネルディスカッションへの参加、学会として初めてとなる高校生によるポスター発表の機会を得ることができ、本校生徒の発表や研究への熱意を非常に好意的に受け取っていただいた。また、2月には校内で課題研究発表会を開催し、中学校1年生から高校2年次生までの生徒全員が縦割り形式でグループを作り、研究の成果を発表した。保護者の方々にも参観していただき、貴重な意見等を頂戴した。

これらの活動は、特別の教育課程の編成により実施した「GS 課題研究」等の成果を生徒自らが発表することで、社会問題への興味・関心等を他者へ感化する活動と捉えており、今後も多方面において同様の取組を実施したいと考えている。

## 4. 実施の効果及び課題

### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校の校訓は「進取創造」と「至誠貢献」であり、教育方針は「豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する」である。また教育目標は以下のとおりである。

「豊かで高い知性を養い、主体的・創造的に学ぶ生徒の育成」

「礼節と品性を尊び、心豊かで包容力をもつ個性あふれる生徒の育成」

「真理と正義を愛し、未来を切り拓き世界に貢献できる生徒の育成」

「健やかな心身を育み、国際社会の中でたくましく生き抜く生徒の育成」

本校の特別の教育課程は、校訓・教育方針・教育目標の達成に向けて編成され実施されている。また、これからの時代は、言葉や価値観が異なっても、世界の多くの人々を理解し堂々と渡り合える人、適切な世界観を持ち自己主張を的確に行える人、健康で豊かな知性と教養をもつ人などが、日本や世界の発展と平和のために行動する必要があると考える。本校では、特別の教育課程の編成を通して、以下の5つの資質・

能力を育成することも目指している。

- 1) 現代社会を生きる地球市民としての「適切な世界観」
- 2) 問題の原因や構造の「本質を見抜く力」
- 3) そこに生きる人々の気持ちを受け入れることのできる「共感する力」
- 4) 人間や社会の理想的なあるべき姿を具現化する「構想力」
- 5) 多様な人びとの意見を聞き、自分の考えや立場を「相対化する力」

## (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

学校設定教科「GS 課題研究」を設置し、各課題研究科目を実施したことにより、各教科・科目等の学びと各課題研究における学びが生徒の中で統合され、学習内容及び活動が深化している。具体的には、各教科・科目等で育成する知識・技能が、各課題研究科目の学習により、生徒にとって生きて働くものとなり、物事を実際的な課題として捉えながら、グループ等での話し合いといった言語活動を行い、培った思考力・判断力・表現力等を活用して課題解決を図ることができるようになってきている。

## 5. 課題の改善のための取組の方向性

本校には令和3年度から国際バカロレア（IB）類型が導入されており、探究活動において、普通類型の生徒と IB 類型の生徒が協働して研究を行うことに加え、令和5年度は、IB 類型の生徒が初めてメコン川フィールドワークや学会発表に参加した。それらの活動の中で、普通類型の生徒と IB 類型の生徒の着眼点の違いなどに気づく機会もあり、生徒間でその理解を深め合うことができた。今後も IB の「学習の方法」、「指導の方法」の理解を深め、探究学習に取り入れていきたい。

課題としては、探究活動において北上川や東南アジアを重視する一方で、学校が立地している地域への理解が十分とは言えない状況があげられる。また、これまでの研究成果について「生徒作品集」をそれぞれの年次ごとに作成し、主に論文形式でまとめたものを参考にしながら研究を深めてきているが、フィールドワークの情報も含め、これまでの研究データが膨大になってきており、生徒が活用しきれていない。次年度は、地域への理解を深める行事やイベントをプログラムに盛り込み、地元理解を深めていく。加えて、これまでの研究データやフィールドワークのデータを、生徒が使いやすいように整理するとともに「課題研究ガイドブック」を改訂し、データへアクセスしやすくなるように改善する。